

第4学年 社会科学習指導案

授業者 1組 門脇 元子
2組 野津 久与

1. 単元名 「東出雲の発展に尽くした佐藤忠次郎」

2. 単元の目標

稲麦こぎ機や農機具などを発明、改良に努力した佐藤忠次郎の働きについて、体験的な活動やゲストティーチャーからの聞き取りを通して具体的に調べ、先人たちの知恵や苦心によって当時の人々の生活が向上したことや、先人の働きが現在の東出雲の発展の礎になっていることを理解するとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。

3. 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①郷土・東出雲の発展に尽くした佐藤忠次郎に関心をもち、その業績や働きについて意欲的に考えようとしている。 ②地域に残る佐藤忠次郎の業績や活躍の様子について、資料を活用しながら、意欲的に調べようとしている。	①佐藤忠次郎やその遺志を継ぐ東出雲の人々が、どんな願いをもちながら努力していたのかを考え、自分の思いを表現している。 ②佐藤忠次郎の働きが、現在の東出雲や自分たちの生活に与えた影響を考え、ものづくりが受け継がれていることやものづくりの町としての東出雲のよさについて考え、表現している。	①写真、絵、年表、文章、紙芝居等の資料から、事実を読み取っている。 ②ゲストティーチャーからの話や、実際に農機具の体験をすることで、当時の人々の生活の向上や東出雲の発展についてつかんでいる。	①佐藤忠次郎が農機具を発明したことで、当時の人々の生活が向上したことを理解している。 ②佐藤忠次郎が会社を興したことから、東出雲が工業の町へと発展していったことを理解している。

4. 単元の構想

○本単元は、小学校学習指導要領社会科第3学年及び第4学年の目標(2)(3)および内容(5)のア、ウを受けて設定した。

この単元で取り扱う佐藤忠次郎は、農家の人々の生活が向上するように、苦心や努力を重ね、脱穀機をはじめとする様々な農機具の機械化を促進し、農作業の負担軽減を進めた。さらに会社の規模を広げることで、東出雲を工業の町へと発展させていった。忠次郎の活躍は今もなお受け継がれている功績である。これらの功績を具体的事例をもとに調べることにより、子どもの地域社会に対する誇りと愛情を育むことが期待できる。

○単元の学習を進めていくに当たって、子どもの学びの意識がつながるような単元構成を工夫することで、より子ども達が積極的に学びに取り組めるようにしたい。工業の町である現在の東出雲の様子から過去にさかのぼり、佐藤忠次郎の業績を調べていき、今もなお、忠次郎の思いを引き継ぎ、ものづくりに励んでおられる石原さんの話を聞くことで、忠次郎の業績が今の東出雲につながっていることをつかませたい。そして、これからの東出雲について話し合うことを通して、地域への愛着や誇りを育てたい。

また、自ら語りたくなる授業の実現に向け、自分の町のこととして考え追究していくことができるように、「実物に触れる」「地域の方の話を聞く」「地域の工場に見学に行く」ことを組み込んでいく。

5. 単元指導計画 (全13時間)

過程	時数	○主な学習活動	資 料	評 価 規 準	
つ か む	1	○東出雲のマンホールを観察し、何が描かれているか確かめる。 ○なぜ歯車が描かれているのか考え、今後の学習の見通しをもつ。	○マンホールの紹介新聞記事 ○旧東出雲町のマンホールの写真	東出雲のマンホールに歯車が描かれていることを知り、これまでの学習や経験などからその理由を考え、東出雲が工業の町であることについて意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】	
	2	○焼き玉発動機愛好家の方と出会う。 ○焼き玉エンジンのすごさについて考える。	○焼き玉発動機愛好会 ○発動機の観察 ○稲麦こぎの写真	焼き玉エンジンを見学することによって、佐藤忠次郎が稲麦こぎ機以外にも発明したものがあることを理解している。 【知識・理解】	
	3	○工業の町東出雲の始まりとなった「佐藤忠次郎」について話し合う。 ○単元を通じての課題を設定する。	○焼き玉発動機愛好会 ○発動機の観察 ○稲麦こぎの写真	佐藤忠次郎は稲麦こぎ機を発明した、東出雲の人であることを確認し、学習問題を考え、表現している。 【思考・判断・表現】	
調 べ る ・ 考 え る	4	○忠次郎の紙芝居を見て、忠次郎の生い立ちや、稲麦こぎ機の発明、工場の発展の様子について知る。	○忠次郎の紙芝居	紙芝居から忠次郎の生い立ちや農機具の発明にいたる経緯、その後の東出雲の町の発展について、調べようとしている。 【関心・意欲・態度】	
	5	○忠次郎が生まれた頃の米作りの様子について調べる。	○昔の農作業の絵図 ○米作りの作業こよみ ○道具の写真	明治時代の米作りの写真や絵などの資料から、忠次郎が発明を考えた頃の米作りの様子を理解し、わかったことをまとめている。 【観察・資料活用の技能】	
	6	○体験を通じ、稲麦こぎ機の発明により、農作業の効率が飛躍的に向上したことをつかむ。	○千歯こぎ ○佐藤式稲麦こぎ機	体験を通じて、当時の脱穀の作業の苦勞を理解している。 【知識・理解】	
	7	○米作りの労力を減らそうと稲麦こぎ機の改良に努めた忠次郎について考える。	○千歯こぎ機 ○回転式足踏みこぎ機 ○当時の米作り資料年表	写真や年表、実物の農機具などから、忠次郎がどのように発明・改良していったのかの事実を読み取ったり、思いを実感したりしている。 【観察・資料活用の技能】	
	8	○資料から、忠次郎の発明した機械類が全国に広まっていった様子をつかむ。	○年表 ○農機具の生産台数グラフ ○出荷先の全国地図	農機具の生産台数グラフや出荷先の地図などから、忠次郎の発明した稲麦こぎ機が全国に広がっていったことを読み取っている。 【観察・資料活用の技能】	
	9	○忠次郎が農機具の会社を作ったことで、東出雲はどう変わったのか考える。(GT・森本さんのお話)	○東出雲の工場の分布図 ○農機具の出荷台数・出荷先地図	GTの話聞き、忠次郎が会社を興したことから、東出雲が工業の町へ発展していったことを理解している。 【知識・理解】	
	10 ・ 11	○石原精工を見学し、工業の町として発展した東出雲の工業の様子に関心をもつ。	○石原精工工場見学 ○こぎ胴 ○石原さんのお話	石原精工の工場見学や社長の石原さんのお話から、今も忠次郎の技術が受け継がれていることを知り、東出雲がものづくりの町であることを理解している。 【知識・理解】	
	ま と め る	12 本時 ①	○忠次郎の活躍と、石原さんとを比較しながら、二人の似ているところについて考える。	○石原精工見学の写真 ○こぎ胴の写真 ○忠次郎の業績についてまとめた資料	佐藤忠次郎の業績が現在の東出雲に影響を与えていることや、現在でもものづくりに励む方の思いについて考え表現することができる。 【思考・判断・表現】
		13 本時 ②	○学習をふりかえり、将来の東出雲について話し合うことを通して、ものづくりが受け継がれていることやものづくりの町、東出雲の良さについて考える。	○これまでの学習で使った資料	ものづくりが受け継がれていることやものづくりの町として東出雲のよさについて考えることができる。 【思考・判断・表現】

6. 知識と問いの構造図「東出雲の発展に尽くした佐藤忠次郎」(計13時間)

【学習指導要領との関連】

【概念的知識】

(単元を通して獲得させたい知識)

【中心学習問題】

(単元を方向づける問い)

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり平表にまとめた
りして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くし
た先人の働きや苦心を考えるようにする。
ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的な事例

様々な苦心や苦勞を重ねて、農機具の発明や改良に努めた
佐藤忠次郎の働きにより、東出雲の人々の生活の向上への願
いが実現し、ものづくりの町「東出雲町」は発展し、今なお
それが受け継がれている。

佐藤忠次郎は今の東出雲のために、いったいどんなことをした
人なのだろう。③

第1次 (計3時間)

【具体的知識】(獲得させたい知識)

東出雲には、農機具などの発明、改良に努
力した佐藤忠次郎という先人がいる。

東出雲の
マンホール
には、「工業」
をした昔車
が描かれて
いる。①

佐藤忠次
郎は稲妻こ
ぎ機以外に
、現
火エンジン
も愛
用してま
れた。②

佐藤忠次
郎は稲妻こ
ぎ機という
発明した東
出雲の人だ
。③

【問い】(続き玉エンジン愛好家の話)

どうして東
出雲町のマン
ホールには昔
車の絵が描か
れているのだ
ろう。

佐藤忠次
郎はどんな
発明をした
のだろう。

忠次郎に
ついて知っ
ていること
を話し合お
う。→中心
学習問題

【用語・語句】

かまぼこ工場
三葉マヒョ
ラ農機

佐藤忠次
郎
火エンジン

稲妻こぎ機

第2次 (計6時間)

佐藤忠次郎は、米づくりに大変な努力を払っていた当時の町の人々の生活の向上の願いを考え、
様々な苦心や苦勞を重ねて農機具の発明・改良に努め、東出雲の町へと発展していった。

佐藤忠次
郎の働きに
より東出雲
の町の人々
の生活が変
化してきて
いた。④

明治の頃の東
出雲の人々の
生活は米作
りを中心と
して、大変
な労働を行
っていた。⑤

稲妻こぎ機
の発明により、
農作業が効
率的になっ
た。⑥

佐藤忠次
郎は、米作
りの努力を
減らそうと
稲妻こぎ機
の発明に努
めた。⑦

佐藤忠次
郎の発明し
た稲妻こぎ
機は全国東
出雲の町へ
広がって
いった。⑧

佐藤忠次
郎は農機具
の会社を作
り発明した
東出雲の工
業が盛ん
になった。⑨

(紙芝居)

(千世こぎ体験)

(森木さんの話)

佐藤忠
次郎はど
んな人だ
らう。

明治の人の米
作りはど
んな様
子だった
のだろう。

本当に稲
妻こぎ機は
人々の苦
勞を減ら
したのだ
らうか。

忠次郎
はどんな
思いで稲
妻こぎ機
を明した
のだろう。

忠次郎の
発明した
稲妻こぎ
機はどの
くらい
使われて
いたのだ
らう。

忠次郎が
農機具の
会社を作
ったこと
は東出雲
にどう
関わった
のだろう。

千世こぎ

農機具

工業
輸出

第3次 (計4時間)

佐藤忠次郎の業績により、東出雲の人々の生活は向上
し、ものづくりの町として世界とつながり、今なおその
思いが引き継がれている。

忠次郎の思
いを引き継ぎ、
こぎ調を作っ
ておられる石
原精工へ、今
東出雲の工業
について知る。
⑩⑪

今でも東出雲
の町では佐藤
忠次郎の思いを引
き継ぎ、農機具
の部品作りに頑
張っている人々
がたくさん
いる。ものづく
り「ものづく
り」へと発展し
ていった。⑫

様々な苦心や苦
勞を重ねて、農
機具の発明や改
良に努めた佐藤
忠次郎により、東
出雲の人々の生
活の向上への願
い、ものづく
りの町「東出雲
町」は発展し、今
なお受け継が
れている。⑬

(石原精工見学)

今では忠次
郎が発明した
農機具のよ
うに作って
いるのだら
う。

忠次郎と石
原さんど
んなところ
で働いてい
るのだろう。

これからの
東出雲はど
んななっ
てほしいか。

もの
づくり

【問題解決的な学習の過程】

つかむ

調べる・考える

まとめる

7. 本時の学習① (12 / 13時間) (4年1組)

(1) 本時の目標

石原精工の石原さんと佐藤忠次郎を比較することから、佐藤忠次郎の業績が現在の東出雲にも大きな影響を与えていることを考えることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

過程	主な学習活動と子どもの反応	教師の支援 (○) と評価 (☆)
つかむ	1 石原精工の石原さんの話の中ですごいと思ったことについて話し合う。 ・すごい技術 ・改良・工夫している。 2 本時の学習問題を確認する。	○見学のメモやノート、写真などから、石原さんについて思ったことを話し合うことを通して、本時の課題を考える手がかりとする。
	忠次郎さんと、石原さんのにているところはどんなところだろう。	
考える	3 忠次郎さんと石原さんの似ているところはどんなところか考え、話し合う。 ・忠次郎の発明した部品をつくり続けている。→改良・工夫 ・石原さんもものづくりを引き継いで頑張っておられる。 4 学習のまとめ、ふり返りをする。 ・忠次郎さんと石原さんの似ているところがたくさんあって驚いた。 ・昔と今と違いがあっても、忠次郎さんと石原さんは似ていてつながっている。	○忠次郎の発明が今にも引き継がれていることに気づかせるために、忠次郎と石原さんとを比較しながら、二人の共通性について考える。 ○二人の共通点をキーワードにして、二人のつながりについてまとめるようにする。
まとめる		☆佐藤忠次郎の業績が現在の東出雲に影響を与えていることや、現在でもものづくりに励む方の思いについて考え表現することができる。 【思考・判断・表現】

7. 本時の学習② (13 / 13時間) (4年2組)

(1) 本時の目標

将来の東出雲について話し合うことを通して、ものづくりが受け継がれていることやものづくりの町、東出雲の良さについて考えることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

過程	主な学習活動と子どもの反応	教師の支援 (○) と評価 (☆)
つかむ	1 これまでの学習 (過去から現在) をふり返る。 ・米作りからものづくりの町へと変わっていった。 ・忠次郎さんの発明のおかげで、楽になった。 2 本時の学習問題を確認する。	○学習をふりかえる手がかりとして、これまでの学習の足あとやノート、写真などを掲示して確認する。
	これからの東出雲は、どうなってほしいか。	
考える	3 課題について考えを話し合う。 ・ものづくりの町としてもっといろいろな物を作ってほしい。 ・工業の町として続いてほしい。 4 学習のまとめ・ふりかえりをする。 ・忠次郎さんの思いがずっと続いて、ものづくりの町としても続いてほしい。 ・忠次郎さんや石原さんのこと、ものづくりの町の東出雲のよさをいろんな人に伝えていきたい。	○これまでの学習と結びつけたり、考えた理由を発言できるように促す。 ○東出雲がどうなってほしいか考える中で、自分ができていることを考える発言が出てきたときは立ち止まって広げることにより、自分のこととして考えられるようにはたらきかける。
まとめる		☆ものづくりが受け継がれていることやものづくりの町として東出雲のよさについて考えることができる。 【思考・判断・表現】